



## 答え合わせ・解説

|    |   |  |
|----|---|--|
| 問1 | <b>答え 1</b><br><b>栃木県</b>   | 関東地方にある内陸県は、栃木県、群馬県、埼玉県の3県です。山梨県、長野県、滋賀県も内陸県ですが、中部地方や近畿地方に属します。栃木県は日光市を中心に観光業が盛んであり、首都圏からのアクセスも良いため、多くの観光客が訪れます。   |
| 問2 | <b>答え 1</b><br><b>人口が多く、第3次産業の割合が高いとともに、農業産出額と製造品出荷額がともに全国平均を上回っている。</b>                    | 千葉県は首都圏の一角として膨大な人口を抱えており、第3次産業有業者割合が高いのが特徴です。産業面では、京葉工業地域による工業生産と、全国有数の農業産出額を両立させており、面積が全国平均に近い中で、これほど多角的に高い指標を示す県は全国的にも珍しい存在です。   |
| 問3 | <b>答え 1</b><br><b>近郊農業</b>  | 大都市の周辺で、輸送コストを抑えつつ鮮度の高い農産物を供給する形態は近郊農業と呼ばれます。千葉県はこの近郊農業の代表的な県であり、キャベツや落花生、梨などの多様な品目が生産されています。  |
| 問4 | <b>答え 1</b><br><b>一斉に入居した世代が同時に高齢者となることで高齢化率が急上昇する一方で、再開発により特定の若い世代が流入し、人口構成が動的に変化している。</b> | 多くのニュータウンは短期間に集中的に開発されたため、同時期に入居した世代が揃って高齢期を迎えることで、一般的な地域よりも急速に高齢化が進む傾向にあります。しかし、近年では利便性の高いエリアを中心に住宅の更新が進み、かつての子供世代や新たな世帯が流入することで、人口構成に新しい変化が生まれています。このように、ニュータウンは単に衰退するだけでなく、場所によっては人口の若返りや構成の変化を伴いながら存続しているのが実情です。 |
| 問5 | <b>答え 1</b><br><b>原料となる原油や鉄鉱石の多くを海外からの輸入に頼っており、大型船舶による搬入や製品の出荷に便利のため</b>                    | 石油化学工業や製鉄業は、海外から大量の原油や鉄鉱石を輸入する必要があります。大型船舶が直接接岸できる水深の深い港湾付近に工場を置くことで、輸送コストを大幅に抑えることができます。このような立地を「臨海型」と呼び、京葉工業地域の発展を支える大きな要因となりました。一方、電子部品や自動車などは輸送効率を重視し、インターチェンジ付近の内陸部に立地する傾向があります。                                |
| 問6 | <b>答え 1</b><br><b>その地域に住んでいる「夜間人口」よりも、仕事や通学のために滞在している「昼間人口」の方が少ない。</b>                      | 昼夜間人口比率は、夜間の居住人口を100とした場合の昼間人口の割合を示します。数値が100を下回るということは、昼間にその地域にいる人口が、夜間に住んでいる人口よりも少ないことを意味します。これは、住宅地としての機能が強く、仕事や学びの場が県外（主に東京都）にある人が多いことを裏付けています。  |
| 問7 | <b>答え 1</b><br><b>北部の高い山を越える際に水分を失った冷たく乾燥した季節風が、標高の低い平野部に向かって強く吹き下ろす</b>                    | 北側の険しい山地は、冬の湿った季節風を遮る壁の役割を果たします。水分を雪として山側に落とした風は、乾燥して軽くなり、標高差の大きい関東平野へと一気に吹き下ろしてきます。これが「からっ風」と呼ばれる強い北風の正体であり、山地から平野へと急激に標高が下がる断面図のような地形構造が、この気象現象を発生させています。  |
| 問8 | <b>答え 1</b><br><b>出発地点から中央部にかけて標高が上がると、中央部を頂点として再び標高が下がる凸型の形状</b>                           | 鎌倉の「切通」は、周囲を山に囲まれた地形において、山の一部を切り開いて造られた道です。地形図の等高線から、道の中央部（切通部分）が標高70mと最も高く、その前後の地点がいずれも標高50mであることを読み取ると、断面図は中央が盛り上がった山なりの形状（凸型）になることがわかります。もし中央が低い凹型であれば、それは「谷」や「掘割」の形状を示すこととなります。                                  |